

「自主防災の町への第一歩」

小川消防団 高瀬 亜沙美

私達、埼玉県小川町の消防団の女性団員は、平成24年4月に結成され、活動をスタートしました。現在、女性団員は8人で、医療関係者や介護施設職員、役場職員などです。まだ結成まもない私達ですが、それぞれの得意分野を最大限に発揮できる活動は何か、と考え、少しずつ形にしてきました。

1年目は、応急手当などの様々な研修を受けたり、男性団員の訓練の様子を見学するなど、覚えること、知識を増やすことで精一杯の年でした。その中でも、私達にできることは何だろうと、話し合いを重ね、1年目も終わりになるころ、ようやく見つけたのです。その一つが寸劇です。

小川町では、高齢者人口が年々増えてきています。一人暮らしの方、日中独居の方など様々ですが、「火災などの災害に遭遇したらどうしよう。」と不安に感じている方も多いのではないのでしょうか。そこで私達は、日常生活の中で、「こんな時どうしたら良い？」と、少し悩んでしまうような事例について、寸劇をまじえて、〇×クイズ形式で楽しんでもらいながら、防災の知識を得ていただこう、と考えました。

舞台は、おじいさんとおばあさんの家。

オレオレ詐欺の電話がかかってきたり、消防署員と名乗る者が高額な消火器の販売に来たり、住宅用火災警報器設置などの場面を、ユーモアをまじえて上演、合間に、関連するクイズを出しています。

音響担当の私はいつも舞台そでから見ていますが、団員の演技力はなかなかのものだと感じています。この場でお見せできないのが少し残念ですが、2年目の今年度、小川町の各地区の区長さんに披露したことをきっかけに、高齢者を対象とした集まりで、ぜひ寸劇を披露してほしいとの依頼を沢山いただきました。

寸劇とともに行っているのが「おたまじゃくし体操」と「火消しゲーム」です。

「おたまじゃくし体操」は、椅子に座ったままでもできて、簡単に覚えられる体操です。音楽に合わせて行います。

「火消しゲーム」はバケツリレーを参考にしました。水滴の形をしたマグネットを順に手渡して炎を描いたボードにはりつけ、火を消すという、早さを競うゲームです。ボードは3つあり、各ボードに団員がついて、全ての水滴を貼り終わったら、団員が「消火完了！」と伝えます。

実は、高齢者の皆さん、このゲームを一番本気で頑張ってくださいます。優勝チームには、助けを呼ぶときに吹くための「命を守る笛」のプレゼントもしてきました。

このような楽しいゲームで、地域の防災、連帯意識を高める手助けになれば、こんなに嬉しいことはありません。

ただ、このような活動をしながらも、大きな火災を近くで見て、大切な人や物を失うことの悲しみ、火災の怖さを改めて感じさせられることもありました。

みなさんも当てはまると思いますが、仕事をしながら、家庭をもちながらの活動は、簡単なことではありません。ただ、その中でも今まで8人で頑張れたのは、火災で悲しい思いをする人がゼロになってほしいという強い思い、ただそれだけだと思います。

この2年間で私達、小川消防団、女性団員の活動は形ができてきましたが、さらに工夫改善を加えながら活動を広め、小川町のみなさんがいきいきと生きていける町づくりを目指していきたいと思います。この活動は、石川団長をはじめ、男性団員の方々の協力に助けられています。他の団員への感謝も忘れずに、「自主防災の町」を目指して、今後も活動していきます。

男性団員は火災現場での消火活動を、私たち女性団員はこの防災活動で町に明るい灯をともしていこう。